

城北信用金庫

事業内容：信用金庫としての預金・融資などの金融業務の他、メディアの活用やイベントなど様々な非金融業務をもって地域の課題解決に取り組んでいる。

創業：104年



理事長 大前 孝太郎さん

■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

協同組織金融機関は、組合員同士がお金を出し合い、資金調達が必要な組合員に貸し付けるという古くから続くスタイルに根付いています。そこから、時代と共に規模が拡大し、考え方も現代のニーズに合わせて柔軟に進化を遂げながら、長い歴史を築いてきました。

その間に、お客様にご理解いただくことや、地域を盛り上げていくような試みを共に行ってきたことが存続に繋がっているのだと思います。

その背景には、「お互い様」の精神が基本にあると考えています。

地域金融機関として、自分たちのことだけではなく、地域全体の賑わいづくりに積極的に取り組むことが大切です。また、一度やれば終わりではなく毎年繰り返し、継続して活動を行う姿勢を今後も継続していきたいと思っています。

■御社の中のイノベーション事例についてお話を伺ってもよろしいでしょうか。

金融機関としては、“非金融”という概念を早期に掲げ、新たな価値を創造するための取り組みを続けています。しかし、その考えや取り組みが特別なイノベーションかと問われると至極当然のこのようにも感じています。

具体的に、様々な取り組みをトライ&エラー、もしくはトライ&ランしながら数多く挑戦してみる中で、

ある程度支持され続けているものが結果的には一つのイノベーションとなるのではないのでしょうか。

価値観も多様化している世の中のため、なかなかどういったものが好まれるのかを事前に予測していくことは難しいものです。そのため、とにかく“数を打つ”ということがやはり大事なのではないかと思います。

■これから先の次世代に対するメッセージをいただいてもよろしいでしょうか。

本質的にお客様を一番大切にしないといけない部分はありますが、経営者としての自分の尊厳や、従業員の尊厳を守ることのバランスも重要だと思います。

一番良いのは、お客様を大切にすることと、従業員の尊厳を守ることという二つの矢印が同じ方向を向いているような、業務として一致する仕組みをデザインできれば一番いいのかなと思います。

業種によってはなかなかそうはいかない、難しいところもあるかとは思いますが、それでもそういった意識を持つということはとても重要だと思います。

また、経営していて「楽しい」と思えるかどうかか持続に繋がるのではないのでしょうか。

個々のプロジェクトに対し、自分自身やそれにコミットしている人々が“面白い”と思える要素が多少なければそのプロジェクトも持続可能とは言えません。状況によって辛い時期はあるかとは思いますが、「楽しい」と思えることをしてほしいですね。

